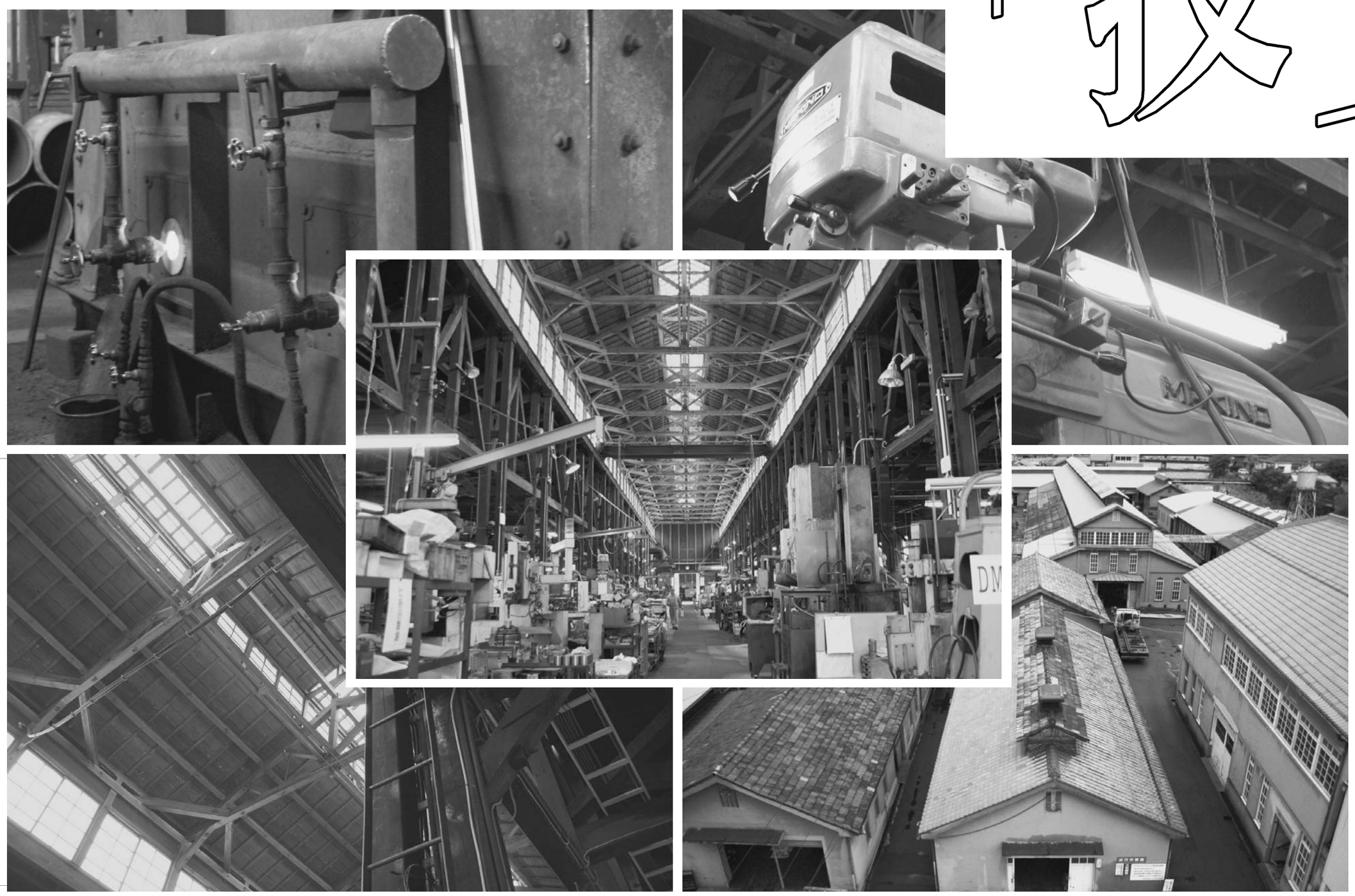
中国・四国地域の「技」



中国・四国地方にはモノづくりの歴史があり、産業遺産とも呼べる工場が現在も稼働している（写真は広島県庄原市のヤマモトロックマシンが1930年代に建てた工場、瓦屋根で柱や梁に栗の木を使っている）

既存製造業の第二創業 ∞ 地域再活性化のカギ

「地方の時代」が叫ばれて久しい。近年も中央の政治・行政システムを地方に移そうという地方分権議論が盛んに行われた。今後もその時々の情勢を反映しながら、同趣旨の議論は続くのだろう。しかしその背景には一貫して、地方が衰退・疲弊し一極集中が進んできた事実がある。中国地域の人口は全国よりも10年早く、95年をピークに減少に転じ、このままでは2030年には約650万人まで減少するという。地域の活力を取り戻すのはたやすいことではない。

☆★☆

しかし再活性化のカギは、中国・四国地域が積み重ねてきた産業集積にある。改めて指摘する必要もなく、この地域には化学・鉄鋼などの素材型産業や自動車に代表される加工組み立て型産業が高度に集積してきた。やはり強みはモノづくり産業である。地域格差を生む重要なファクターの一つは競争力ある産業の集積度。その点、中国・四国地域は優位性がある。問題は優位性・強みをどこまで地域が自覚し、強さをより確固たるものにできたかということだ。

競争力ある地域産業を育成するには、企業誘致や新産業の育成などの方策がある。もちろん各自治体は躍起になってこれらの課題に取り組んできた。とりわけ企業誘致には知恵と工夫を凝らし、各県はしのぎを削っている。ただ、大手企業ほどリストラクチャリングもダイナミックに断行する。誘致したからといって安閑としてはいられない。その一方、新産業の育成には当然、時間と手間がかかり、成果が得られる確率は高くない。

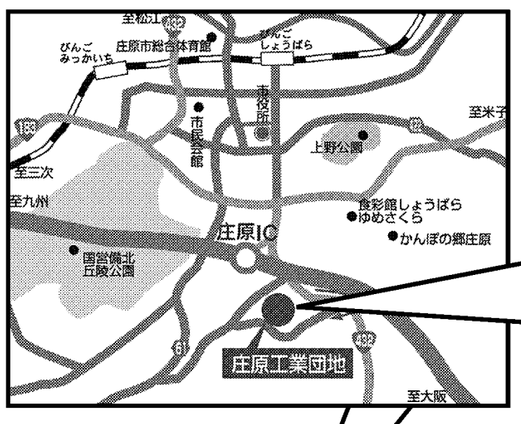
そこで改めて取り組まねばならないのは、既存の製造業の〝第二創業〟だ。製造業はその業態が中小企業も盛んに海外進出する時代だがあくまで〝マザー工場〟は国内だ。中国・四国地域には100年以上もの歴史ある企業が多数存在する。簡単に地域を離れることはできない。既存の製造業、とくに中堅・中小企業の業態を転換し、限られた市場でも特徴ある製品を持つ企業に変身させることは、地域活性化の近道だ。

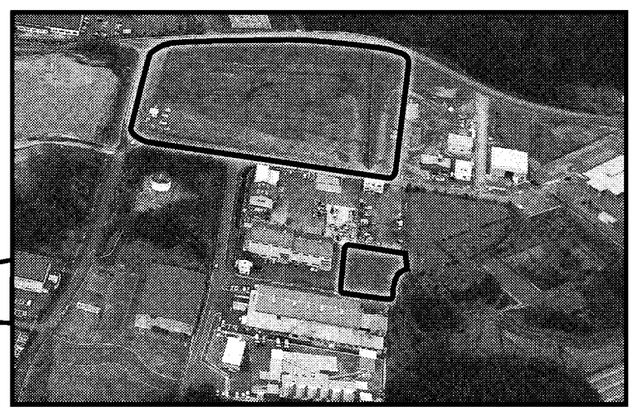
☆★☆

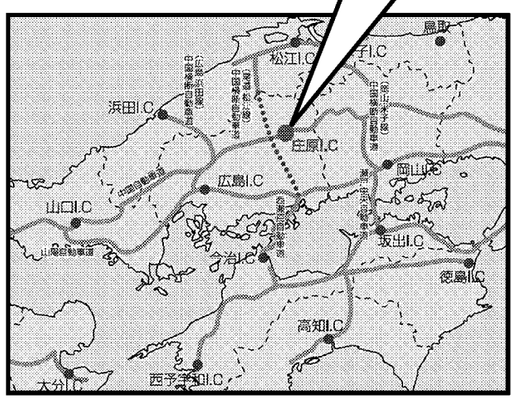
折からの東日本大震災で、日本のモノづくりは窮地に立たされている。とりわけ自動車産業や電子材料などの分野において、サプライチェーンが大きく破壊された。直接の被災を免れた中国・四国地域にも影響は及んでいる。ましてや中小製造業の再建はたやすいことではない。しかし日本の企業は95年の阪神・淡路大震災で貴重な教訓を得た。早晩、力強い復興が始まろう。ただ〝復興〟と〝復旧〟はおのずと異なる。どのような地域づくりをめざすのか、どう産業構造を変革し、新産業を創造するのか。ビジョン作りも平行して進めなければならない。まなじりを決して〝復興〟に取り組もう。

中国・四国経済特集

さとやま文化都市　庄原工業団地







庄原工業団地のメリット

1 県内トップクラスの低価格
分譲単価13,300円／㎡→土地助成後の実質単価9,975円／㎡

2 中国地域の中心部に位置、理想のビジネス拠点
広島まで90分、松江まで120分、松山まで180分、大阪まで240分、松江尾道線でさらにスピードアップ

3 魅力な優遇制度
広島県及び庄原市による各種優遇措置が充実

4 便利な交通アクセス
国道432号線まで0.5km、中国自動車道　庄原ICまで1.5km、JR備後庄原駅まで3km

お問い合わせ先　庄原市　商工観光課　企業立地係　庄原市工業団地　検索

〒727-8501 広島県庄原市中本町1-10-1　☎0824-73-1178　E-mail：syokou-kigyou@city.shobara.hiroshima.jp

四国化成のさまざまな製品は、
世界のいろいろな所で使われています。
電子機器、プールの水、ラジアルタイヤ、
壁、エクステリア・・・
中には、すでに世界トップシェアのものもあります。
これからも、さらなる活躍の場を求めて。
私たちはもっと深く、もっときめ細やかに、
世界の暮らしとかかわっていきます。

もっと、世界の中へ。

challenge! 四国化成

四国化成工業株式会社　〒763-8504 香川県丸亀市土器町東8-537-1　www.shikoku.co.jp
＜四国化成グループ＞　シコク景材　シコク景材関東　シコク興産　SHIKOKU INT'L CORP.　シコク環境ビジネス　シコク分析センター
シコク・システム工房　シコク・フーズ商事　日本硫炭工業　四国化成（上海）貿易　四国化成（烟台）工業